



宇田川榕菴蔵貼込帖
(津山洋学資料館蔵)

特集

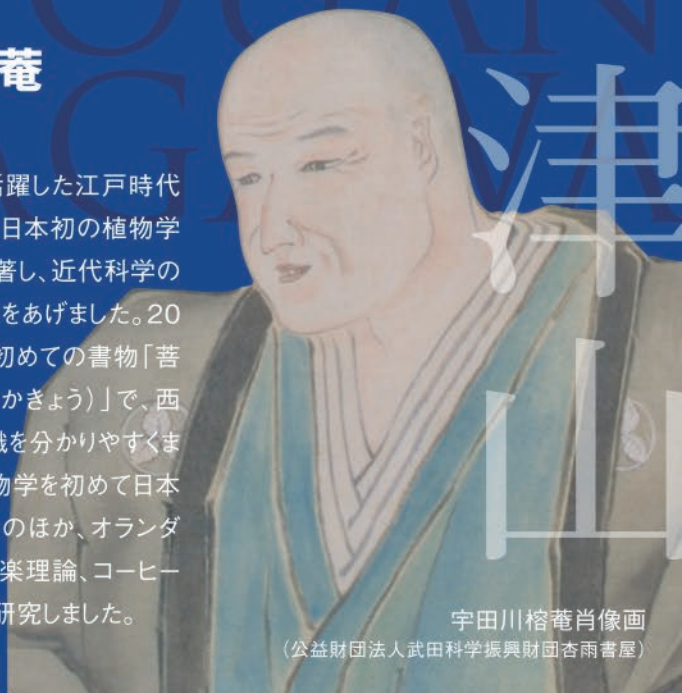
飽くなき 好奇心で 未知の学問 蘭学 に挑む。

武雄 × 津山

宇田川榕菴

(うだがわようあん)

茂義と同時代に活躍した江戸時代最高峰の科学者。日本初の植物学書や化学書などを著し、近代科学の確立に大きな功績をあげました。20代前半には、自身初めての書物「甚多尼訶経(ぼたにかきょう)」で、西洋の植物学の知識を分かりやすくまとめ、本格的な植物学を初めて日本に紹介しました。そのほか、オランダの地理や歴史、音楽理論、コーヒーなど幅広い分野を研究しました。



宇田川榕菴肖像画
(公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋)

鍋島茂義

(なべしましげよし)

江戸時代後期の武雄領主。20代前半で佐賀藩での重要な役職に就くほどの優秀な人物。西洋砲術や火薬の研究、蒸気船の製造などに取り組むだけでなく、文化・芸術などにも才能があり、10代後半から絵画に親しみ、「皆春齋(かいしゅんさい)」という雅号も持っていました。また、ワインやたばこを取り寄せて楽しむような一面もあるなど、西洋技術に幅広い関心がありました。



鍋島茂義肖像(武雄市蔵)



津山市とは？

岡山県北部に位置し、県下第3位の人口10万人の都市。津山藩10万石の城下町から発展した都市で、津山城跡や大名庭園の衆楽園などの観光名所のほか、全国的にも珍しい洋学を専門にした資料館である津山洋学資料館も有名。古くは8世紀から牛の流通拠点で、現在も牛肉料理が名物。

江戸時代、西洋科学技術で最先端を走っていた武雄。オランダを通じて入ってきた西洋の学問「蘭学」を積極的に導入し、研究していました。このことから、武雄は、岡山県津山市、岩手県関市とともに、日本三大蘭学の地とも言われます。武雄市と今回取り上げる津山市には、領主と医者という異なった立場ではあるものの、同年代に若くして蘭学を学び研究した人物がいました。武雄領主であった鍋島茂義と、津山藩の医師であった宇田川榕菴です。直接的な交流はなかった二人ですが、同じような興味関心を持っていました。熱心に蘭学研究を重ね、日本の近代化に貢献した武雄と津山。その蘭学の特徴とちよつとした小話、2市の交流展として開催される企画展の見どころをご紹介します。